

第二十七回日本文学専攻研究集会

令和三年七月三十一日（土）一三時～一七時
於成蹊大学五号館一〇二教室

【研究発表】

一三〇〇～一三〇五

太宰治「思ひ出」論

——志賀直哉「大津順吉」との比較を軸に——

石田 創太郎（博士前期課程二年）

一四〇〇～一四〇五

川端康成「みづうみ」論

——〈主体性〉について——

何 雨峰（博士前期課程二年）

一五〇〇～一五〇五

近現代日本の叙事詩

——題材について——

杉田 将一（博士前期課程二年）

一六〇〇～一六〇五

「見えないもの」としての病

——三遊亭圓朝「怪談乳房榎」——

大橋 崇行（文学部准教授）

おおはし・たかゆき／成蹊大学文学部准教授。博士（文学）。専攻は日本近現代文学（明治文学、現代日本のポップカルチャー）。著書に『言語と思想の言説（ディスコース）』（笠間書院）、『中高生のための本の読み方』（ひつじ書房）などがある。

閉会の挨拶 平野 多恵（日本文学専攻主任）

※感染防止のため、マスクを着用し、社会的距離をとるようお願いいたします。そのほか、スタッフの指示に従ってください。
※本年度は、飲食をとまなう懇親会は企画しておりません。休憩時間などをご利用してご歓談ください。
※緊急事態宣言の発令等により、対面での開催が困難になった場合は、オンライン開催に変更の予定です。その際は、成蹊大学のホームページ(<https://www.seikei.ac.jp/university/>)の"News & Topics"等でご告知します。